

# 平成20年度 第1回 幹事会議事録

(社) 日本地すべり学会

日 時：平成20年6月27日(金) 14:00~17:00

場 所：学士会分館

出席者：

区分		氏名	出席	区分		氏名	出席	
二役等	会長	丸井 英明	○	支部長	北海道支部	前田 寛之	○	
	副会長	広嶋 孝也	○		東北支部	事業計画部長兼任		
	副会長	吉松 弘行	○		新潟支部	川邊 洋	○	
	専務理事	綱木 亮介	○		関東支部	鶴飼 恵三	○	
	前会長	山岸 宏光			中部支部	土屋 智	○	
委員	表彰委員長	古谷 尊彦			関西支部	藤村 尚	○	
	教育問題委員長	岩尾 雄四郎			九州支部	宜保 清一		
各部部长	総務部長	小野 慎吾	○		支部長代行	北海道支部	米田 哲朗	
	編集出版部部长	阿部 真郎	○			東北支部	千葉 則行	
	事業計画部部长	檜垣 大助	○			新潟支部	稲葉 一成	
	国際部部长	宮城 豊彦	○	関東支部		若井 明彦		
	研究調査部部长	八木 浩司	○	中部支部		小野 和行		
部長代行	総務部	松尾新二郎		関西支部		末峰 章		
	編集出版部	新屋 浩明		九州支部		福田 順二		
	事業計画部	原田 敏雄		委員		財政委員長	総務部長代行兼任	
	国際部	上野 雄一				広報委員長	太田 英将	
	研究調査部	榎田 充哉				庶務委員長	山崎 勉	
			(代理出席)		黒川 将	○		
					出席者数	15		

○開会

会長挨拶

前回議事録報告・承認

- ・幹事会後速やかに議事録案を、幹事会メンバーに配信することが確認された。

## I. 議題

### 1. 平成20年度事業運営方針

会長より本執行部での事業運営基本方針が説明され、続いて以下の検討・提案が行われた。

- ・会費の値上げについて

会費値上げの背景説明及び会員への周知のため、会誌に会告を載せることにしているが、会誌だけでなくHPへも掲載することとなった。

また、会員減少の歯止めとして会告を各支部長に配信して、支部長からも各所属会員にメール配信で周知してもらうこととなった。

会費納入の自動化を導入すべきではとの意見が出された。

会員数の維持のために本部-支部が連結し、新規会員の勧誘を支部においても行っていくべきとの意見が出された。

別の市場の必要性が提案された。(ex.子供地すべり学会, 非学会員の興味の獲得, 他学会分

野との連携によって新規会員の獲得)

・事業計画

関連行事（総会、研究発表会、シンポジウム）の同時開催について提案された。

同時開催の場合、開催期間が長期間になるため出張で参加する人には障害になることも考えられるため、困難ではないかとの意見が出された。

若手育成に向けて、充実した話題性のあるシンポジウムを計画していく必要があるとの提案がなされた。

研究発表会は国際行事等との日程を考慮してほしいとの意見が出された。

学会参加者が多い ICF については、開催時期の申し合わせをおこなっているとの説明があった。

・広報

会誌と HP における広報活動の役割を明確にする必要があるとの意見が出された。

会員サービスの向上のために HP 改造などに投資をする必要があるとの意見があった。

・特別予算について

地震緊急調査のフォローや四川大地震への調査団の派遣、国際学会への出資のための特別予算 500 万円の出資について、再度 検討が行われ後日内容を幹事会メンバーに配信し承認を仰ぐことが確認された。

2. 第 47 回研究発表会開催

・第 47 回研究発表会（神奈川大会）の対応状況について報告がなされた。

・地震に関する特別セッション（半日程度）を計画中と報告された。

・地すべり学会 50 周年を記念して座談会を研究発表会開催時に非公開で行う計画があることが報告された。（座談会の内容は後日、学会誌に掲載をする）

3. H20 国際会議の進捗状況

・国際会議の予算計画状況について、収入総額 975 万円、支出総額 1014 万円で若干の赤字との報告された。

・補助金（助成金）の口座について申請者名義・本部・支部で分ける必要があるとの意見が出された。また、科研費は特に制約が多いので確認が必要との意見が出された。

・大会予算に本部が関わる事務経費は計上して良いのか確認が必要との意見が出された。

・収支が黒字になった場合、補助金の取り扱いについて検討が必要であるとの意見が出された。

・予算の執行が煩雑にならないよう注意が必要との意見が出された。

4. 来期会費値上げについて

・5月12日の総会において来期よりの会費値上げ（正会員のみ：7,000円→10,000円）が承認されたことが報告された。

・7月の学会誌において学会費値上げの趣旨説明文書を掲載し、同内容文面をメーリングリスト・ホ

ホームページにも掲載することが報告された。

## II. 報告

### 1. 企画委員会報告

- ・企画委員会より情報公開と出版事業について活動状況報告がなされた。
  - ・情報公開  
ホームページの改訂については広報委員との住み分けを整理し改善を行うことが報告された。
  - ・出版事業  
出版規則を作成し理事会に於いて承認され発行となったことが報告された。  
ランドスライドジャパン出版に取り組む予定であることが報告された。

### 2. 各部、支部からの報告

各部長、支部長より活動報告・活動予定が報告された。

《総務部》

- ・第3回幹事会は11月28日(金)に開催(会場は未定)することを決定した。
- ・第4回幹事会は3月6日(金)に開催することを決定した。
- ・2009年度総会は2009年5月8日(金)に開催することの確認が行われた。

《事業計画部》

- ・第47回研究発表会の準備状況および今後の予定について報告が行われた。

《研究調査部》

- ・新規研究委員会(2件)が承認されたことが報告された。
- ・新たに『岩手・宮城内陸地震地すべり研究委員会』の発足が了承された。
- ・新規研究委員会の内、「すべり面推定精度に合わせた地すべり対策工計画・設計手法の検討委員会」代表：檜垣大助(弘前大学農学生命科学部)は次年度に延期し、岩手・宮城内陸地震地すべり研究委員会の活動を優先的に行うことが了承され、次回の理事会で経緯説明を行うことが承認された。

《編集出版部》

- ・月1回の編集会議を行っていることが報告された。
- ・査読に関して委嘱状を発行せず、個別対応となったことが報告された。

《国際部》

- ・国際会議進捗状況について報告が行われた。
- ・巡検のコースに岩手・宮城内陸地震で発生した地すべり地を入れることを検討中との報告がなされた。

《表彰委員会》

- ・国際賞受賞制度が秋に向けて検討を行っていることが報告された。

《北海道支部》

- ・本部-支部間の連絡を密にすることが重要であるとの意見が出された。

《東北支部》

- ・岩手・宮城内陸地震発生時の初動体制について確認が行われた。

- ・今回、東北支部と国交省との協定が機能しなかったため、今後総括・協議が必要との報告が行われた。

- ・また、緊急調査時の他学会との連携、行政との連携について確認が必要と報告された。

《新潟支部》

- ・第36回地すべり現地見学会を9月26日に中越沖地震の災害現場（柏崎市周辺）で行うことが報告された。

《関東支部》

- ・研究発表会の準備状況について報告が行われた。

- ・研究大会の意味合いや成果について評価し見直す必要があるため、大会終了後に総括を行う予定であるとの報告が行われた。

《中部支部》

- ・現地見学会を富山県で予定していることが報告された。

- ・一般市民向けの講演会を小中学校の自然教育（防災教育）の一環として行うことが報告された。

《関西支部》

- ・関西支部春のシンポジウムを6月6日に開催したところ会員より非会員（特に市民）の参加が多かったとの報告が行われた。これに関して、市民レベルから見た研究成果の発信が重要と提案された。

- ・30歳以下の若手研究者の研究報告等の活動を行っていることが報告された。

《九州支部》

- ・九州支部の活動・活動予定について報告が行われた。

### 3. その他

学会の活性化について討議がなされた。

- ・他学会との差異化が必要である（社会的イメージを確立させる“地すべりに関するプロ集団”）

- ・他学会との共同研究を行ってはどうかとの意見が出された。（共通の会員も多数いるので）

本部より各支部長へ以下の提案がなされた。

- ・各委員会を旅費の都合で欠席する場合は部長代行へ依頼することが確認された。

- ・本部から支部への助成金（30万円）の内訳を20万円が支部への助成・10万円が旅費とすることを次回の幹事会で提案することの報告がなされた。

平成20年度幹事・支部事務局名簿の確認・修正が行われた。

以上

（記録：黒川・文責：小野）